

にいの丘学園について 質問と要望
瀬戸市教育委員会 御中

1. 「にいの丘学園」が 小中一貫校なのか 小中一貫教育校なのか 義務教育学校なのか 教えてください。
2. 学園の設計図、準備委員会の資料、議事録等を、学校や公民館、集会所などで見る(閲覧する)ことができるようにしてください。インターネット環境が整っていない人への配慮をお願いします。
3. 「にいの丘学園」に統合される7校の小学校・中学校の現在の学級(特別支援学級含む)数と教職員数、にいの丘学園の学級数(特別支援学級含む)と教職員数を教えてください。内訳をお願いします。
4. 学園のカリキュラムが9年間を通じた教育課程になると、他の学校への転出入や私立学校受験時に、履修科目や授業進度等で困る子どもが出てくると思いますが、その対応はどうするのですか。
また、最初から「学園に行いたくない」という子どもは、市内の別の公立学校へ通うことはできるのですか。
5. 小・中の施設一体型の学園で、小学生と中学生が同じフロアで授業を行う場合、小学校と中学校の授業時間の違い[45分と50分]はどのように

解決するのですか。

休み時間・給食・掃除等の時間はどのくらいですか。

6. 体験プログラム[キャリア教育・地域学習・情報教育・異学年交流]や基礎基本の習得、英語授業等 様々な目玉があるようですが、こんなに多くの内容を本当に行えるのですか。

①教員の授業準備のための時間は確保されていますか。

②体験プログラム等の打ち合せや研修、「個人カルテ」作成などで教員の多忙化が増すことはありませんか。

③子ども権利条約では、「休息・余暇・遊びの権利」がある(第31条)と明記されていますが、学園の「教育カリキュラム」をこなしたうえで、子どもたちにこの権利を保障することはできませんか。

7. 今まで行っていた各校の特色ある行事等が、形骸化してしまうことはありませんか。

8. 学級数が増え施設利用の調整が難しくなると思いますが、体育館・ホール・図書室等 授業に必要な施設では、小学校と中学校が同時に授業を行うことができるのですか。

子どもたちの学ぶ権利を保障するためにも必要な施設は十分に整えてください。

9. 通学について

①遠距離の場合に、バス利用が可能とのことですが、なぜ有料なのですか。

②市が学校の適正配置を行ったことで遠距離通学になってしまった子どもたちに交通費の負担をさせるのはおかしいと思います。スクールバスの運行ができないのなら「通学パス」を発行して子どもたちの安い安全な通学を確

保してください。

③ 路線バスだけでなく、コミュニティバス路線の見直し、新路線も検討して、地域の人や保護者の利便性も向上させてください。

④ 中学生の自転車通学も認めてください。

10. 図書館の蔵書が増えるようですが、専任の司書は配置されますか。

① 司書が配置されず、ボランティア等で運営する場合、その理由と根拠を教えてください。

② 学校の図書室に在籍する外国籍の子どもたちの母国語の本を置いてください。

11. 給食室は1ヶ所だけのようですが、小学校・中学校のメニューはおおむね800人分を何名の調理員で調理するのですか。調理員・設備に不足はないのですか。

12. 学校は非常時に防災の拠点としての役割をはたします。災害時の施設設備にどのようなものがあるのか教えてください。

13. 小中一貫校備品購入の予算は、3億2000万円と巨額ですがその内訳を教えてください。

また、学校図書を新品購入するとか、新しく備品を購入して古いものは他の学校に回すなどの取り組みもあります。備品は足りないものの補充を~~基本~~原則にして経費削減をはかるべきです。

14. 教育カリキュラムについて

「いのち学園」のすばらしい教育カリキュラムが発表されましたが、どう考えても内容が多すぎると思います。これをすべてこなそうとすると、過労死する教員と不登校になる子どもが増えるのではないかという危機を感じます。

① 基礎基本の習得、や「国語と算数に特化した習熟度、課題別学習」

「4・3・2のステップ」で子どもたちのつまづきをなくす」などの表現がありますが、これは小規模・少人数学級でこそ実現可能な目標ではないでしょうか。あえて統廃合を行い、規模を大きくした学校で目標として掲げるならば、それに見合っただけの教員の加配があるのでしょうか。

② 徹底的な授業改革(考え方改革)として「一斉、画一的な授業から子どもたちに寄り添う授業を展開」、新しい取り組み(やり方改革)として「毎年学力検査を実施」[!?]、一人ひとりに合った学習環境(環境改革)として「学力検査の結果や日頃の学習状況の分析」「習熟度別の集団の構成」「学力差の固定化[!?]」「取り組みたい課題別に集団を構成」[やるきのある子、やる気のない子の振り分け!?]「地域未来塾」[落ちこぼれの受け皿!?]とネガティブ思考しか思い浮かばないのでしょうか、これらの実現を裏付けるための条件整備計画を教えてください。特に教員の加配について詳しくお願いします。

③ 外国語教育=(イェール)「英語」なのですか。

④ 9年間を通して継続的な指導のために「個人カートの活用」とありますが、個人情報取り扱いはどうなりますか。

⑤ 「継続的な指導」が非常に強調されていますが、現任教から学園に引き続き勤務する教職員はどのくらいですか。^{学校ごとの}内訳もお願いします。

15. 「9年間の継続的な生徒に対する指導」や「小中学 教員の乗り入れ授業を行う」とありますが、すべての教員が小中両方の免許を持っているわけではなく、教職員の定期異動もあります。学園に両方の免許を持つ教員だけを配置するのも現実的ではありません。また免許があるからと、本人の希望や承諾なく授業を行わせるのでは、教員のモチベーションが下がります。

① 子どもも教職員も多忙化で疲弊しない、学園で学べなかったといえる学校生活

になるように、教育委員会は現場の教職員や子どもたちの意見をよくきいて
条件整備を行って下さい。

②また、子どもたちによりよい学習環境を提供できるよう 瀬戸市独自の複数担
任制を導入して下さい。

以上